

ホーム社 HOMESHA

RIGHTS GUIDE

2024 Spring

About Us

HOMESHA Inc is part of the SHUEISHA Group founded in 1969, which published over 1,000 works by more than 100 authors in a wide range of genres, including Magazines, Comics(MANGA), Novels, Essays, Children's Books and many other works.

Among its most notable authors are Akira Ikegami, Kaori Ekuni, Hitomi Kanehara, Akane Chihaya.

Our publications are not only aimed at the Japanese domestic market, but also overseas to build global market.

ウン小話 世界一たのしくてまじめでちょっとクサイ授業 **UNKOBANASHI**

The world's most fun, serious, and a little bit stinky class



The author, Noriko Yuzawa, is a professor at Hosei University and a specialist in historical geography and agricultural history. She calls herself a "human feces geographer," a unique title, and has conducted research, public lectures, and workshops on regions, the environment, and society from the perspective of food and excrement, two things familiar to humans. This book is a "poop education book" written by Professor Yuzawa for children. In this storybook, set in an elementary school classroom, children learn about the SDGs and human history through poop (food and excrement cycle) with the adventurous teacher in an enjoyable way. There are 17 "Unko" (Poop) stories that unfold in every class, including social studies, physical education, Japanese, science, and arts and crafts. The book is filled with cute illustrations by Maki Kanai, famous for her reportage essays and illustration essays on her travels around the world. The book includes commentary and appendices such as "What would you do with a toilet in the event of a disaster?" What would you do if there was no toilet paper?

Author
 湯澤 規子
 Noriko Yuzawa

Illustrator
 金井 真紀
 Maki Kanai

ウンコまるのスッキリ！解説

① プリストルスケールってなに？

毎日のウンコはいちどだって同じ色や形で出てくることはないけど、だいたい7つぐらいのグループにわけられるらしいぞ。

ウンコって、食べもののかすや水分、腸の中の菌とかがまざってできてるんだ。腸の中でゆっくり水分が吸収されて、ほどよいかさになっていくんだって。だから、食べたものや飲んだ水分の量、それから腸の中にいる時間によって、ウンコの形とかかたさがちがうんだよ。

19

やがむせいで、まさに「ウンコ座り」だ。最近ではみんなの家でも、たたみや床に座るより、いすやフアに座る洋式の暮らしがあたりまらなっているのだ。だから「ウンコ座り」でしようとする、欧米のひとと同じように、「うしろに転んでしまひひと増えたといわれているんだ。だから、そもそも和式便所を使えないひとを増えている。町のショップパリがコンビニの前で「ウンコ座り」でたむらしていているのを、最近ほとんど見かけなくなっている。ま、トイレの愛用で関係しているのかも。

先生「ショップパリというの古くない……？ ぼくたちは、それから「ぼんぼん」校庭に書かれた「つかい」便」の字のまわりで、ウンコ座りの練習をした。保健室の窓からぼくたちを見ていた校庭先生「が、がんばれー！」って手をのびてくれた。

「あれは、昔の道具で、おんぼりって言うんだよ。おんぼりって、おんぼりって言うんだよ。おんぼりって言うんだよ。」

「おんぼりって、おんぼりって言うんだよ。おんぼりって、おんぼりって言うんだよ。おんぼりって、おんぼりって言うんだよ。」

おんぼりって、おんぼりって言うんだよ。

「おんぼりって、おんぼりって言うんだよ。おんぼりって、おんぼりって言うんだよ。おんぼりって、おんぼりって言うんだよ。」

41

40

「バナナうんちか！ 出たー!!」

卓球

水泳

「さまざまガッツポーズ」

「元氣ウレシイSUBU」

「そのーまへへんてい時間にはんを食入の」

「その2の」

「その3の」

「その4の」

69

68

148×210mm
 Paperback/128pages
 Retail price:JPY 1,200
 Release date:2022/06/24
 ISBN:978-4-8342-5357-3

最強!カレー道 10歳から学べる食の本質

Saikyou! Curry dou

The Best! The Way of Curry

The essence of food that can be learned from 10 years old



This children's book explains curry, which can be called Japan's national dish, from various angles such as taste, history, and economics, allowing anyone from 10 years old to adults to enjoy intellectual exploration through food. The author, Jinsuke Mizuno, is a curry researcher known for his work with the famous curry traveling cooking unit and is a key figure in the spiced curry boom in Japan. The story manga and illustrations were created by Ito Hamster, the author of many best-selling children's books. An elementary school student, Hiroto, decides to beat his rival Masa and make the best "strongest curry" in his class at summer forest school. Hiroto is guided by a "legendary curry master" whom he meets by chance, and explores the world of curry. Through story manga and dialogues, you can enjoy learning about the world of curry, such as "The secret of spiciness of curry" and "How to make money with curry". The book also includes a full explanation of the golden ratio of spices and the secret of curry roux, a Japanese invention. A recipe for the "strongest curry" that can be made with children is also included. This is a book to learn deeply about curry, which has evolved uniquely in Japan.

Author
水野 仁輔
Jinsuke Mizuno

Illustrator
伊藤 ハムスター
Hamster Ito



13 SAIKYOU GURRY DOW 12

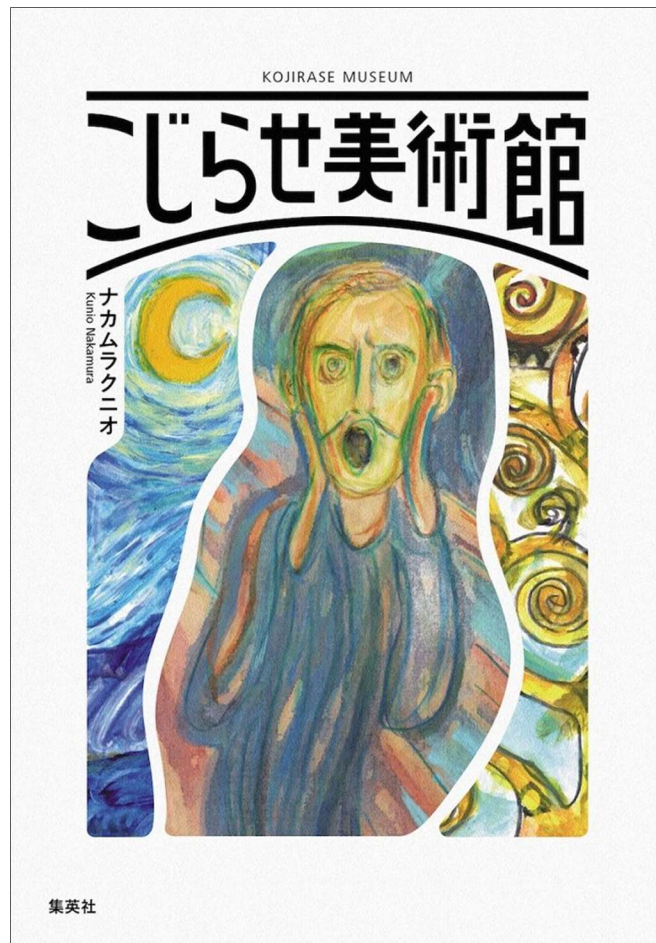
25 94

38 SAIKYOU GURRY DOW 34

148×210mm
Paperback/160pages
Retail price:JPY 1,600
Release date:2023/06/26
ISBN:978-4-8342-5373-3

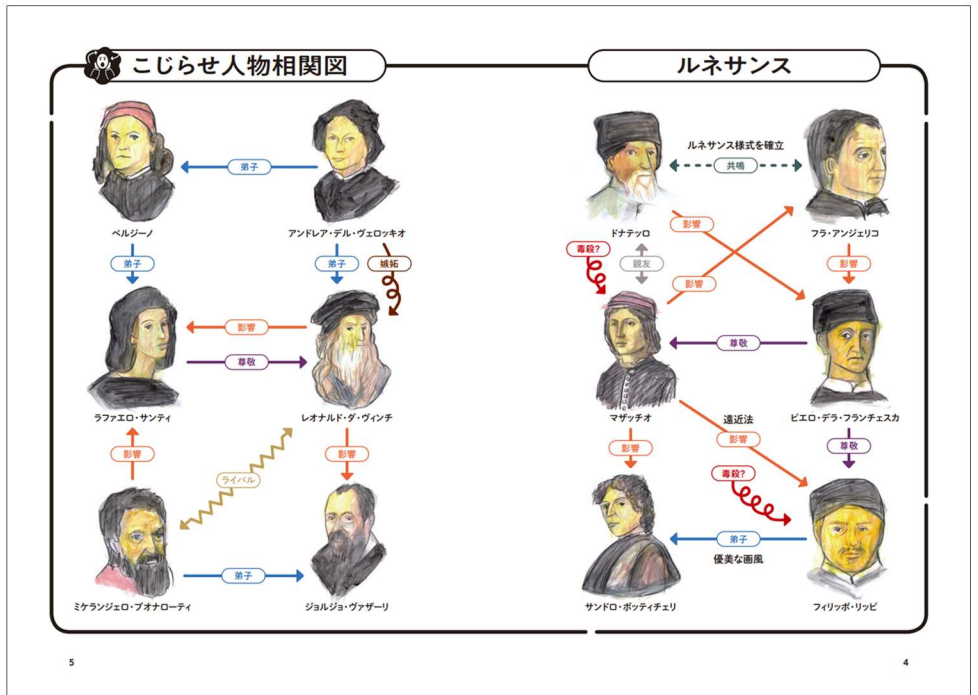
こじらせ美術館

Kojirase Museum



A collection of art commentary essays featured in the Yomiuri Shimbun, Sankei Shimbun, President Online, and numerous other media. The author, Kunio Nakamura, is a kintsugi (which is a technique for repairing broken vessels with gold or silver lacquer), artist, art director, and writer, active in many fields, and in recent years has been providing many art commentaries at museums and in the media. This book focuses on the "unique lives" of famous historical painters and explores the secrets of their personalities and works, ranging from such masters as Picasso, Van Gogh, Munch, and Monet to popular contemporary artists such as Basquiat and Frida Kahlo. In addition to the text, portraits, representative works, and key items are illustrated with tasteful illustrations by Nakamura himself. The book also includes a section that introduces the portraits and masterpieces, making it a colorful and visually enjoyable read. [Table of Contents] - The strange love of Picasso's genius / - What did Munch, a beautiful boy, shout at the center of his agony / - Why did Van Gogh cut off his ears / - The twisted love of Egon Schiele, a super express / - Magritte, a man who lived between "reality" and "unreality"and 12 others in all.

ナカムラクニオ (中村 邦夫) Kunio Nakamura



猫と女性を愛した錬金術師

クリムトの作品は、日本の浮世絵や金屏風のような、あるいは、金箔に埋め尽くされた障子画「イコン」にも見える。この情彩色に彩られたクリムトのスタイルは、どのようにして生まれたのだろうか？

19世紀末、オーストリア・ハンガリー帝国の都、ウィーンは、まさに「黄金」の時代だった。マイラーなどの音楽家が活躍し、支配階級層が贅沢な暮らしを楽しむ時代。クリムトは、そんなキラキラと輝く時代の空気をキャンパスに写しとった。父エルンスト・クリムトは、ボヘミア出身の銅版彫刻師。母はミュージカルファーマーのアンナ・フィンスター。工芸家の父と、音楽の才能を持つ母の血を受け継いだクリムトが、自由な芸術家を目指したのも自然の流れだと言える。そして、なんとこれもクリムトの創作の最も重要な要素。

恋多き世紀末のダメ男 グスタフ・クリムト

Gustav Klimt (1862-1918)

誕生日	1862年7月14日
出身地	オーストリア バウムガルテン
父	エルンスト (銅版彫刻師)
母	アンナ (パフォーマー)
趣味	甲冑、彫像など 日本美術の収集
性格	職人気質 猫好き

経歴
銅版彫刻師の長男として生まれ、奨学金を得てウィーンの王立工芸美術学校に入学。在学中から大部宅の天井画などの仕事に携わり装飾職人としての腕を磨いた。弟エルンスト、友人のアランツ・マツチュととも「芸術家カンパニー」を設立し、劇場装飾を手付け進歩を遂げる。全盛をんだんに用いた「黄金様式」を確立、装飾芸術、絵画、壁画、ドローイング、オブジェなど様々なメディアで制作。自由で斬新、華やかな装飾性と世界的な官能性をあわせもつ作風で知られ、「ウィーン分離派」と呼ばれた。

フィンセント・ファン・ゴッホ

Vincent van Gogh

バスだった。ピアス、イヤリング、入れ歯で装飾したり、耳たぶを大きく伸ばしたりして、性的な魅力を異性にアピールしてきた。村上春樹の小説にも耳がしばしば登場し、性器との関連性が語られる。「手をめぐる冒險」には耳専門のモデルであるガールフレンドが登場する。性的興奮で充血したり、快感を得たりする第2の性器としての「耳」は、村上春樹作品中で神秘的な宇宙として語られているのだ。「1Q84」には、「できたばかりの耳で、できたばかりの女性性器は、とてもよく似ている」という重要な台詞もある。耳には、「社会とつながる器官」という意味も含まれている。日本では、かつては重い刑罰として「耳切り」が行われていた。耳を切り取ることは共同体から排除、断絶される

にゴッホは、この会社から出版された「デッサン教本」を参考に、絵画の勉強をはじめた。生まれながらの天才、度々過ぎた情熱家と思われがちだが、実はとてもおとなしく、父と同じような理職者になることに憧れる努力家という一面もあった。書店に勤めていた時は、聖書の一節を英語、フランス語、ドイツ語に翻訳するのが趣味だった。絵を描く時も、毛糸を使って補色をべべながら色彩が引き立つことを確認していたほど几帳面だった。

そんな真面目なゴッホの恋愛は、まったくうまくいかなかった。20歳の頃好きになった女性は別の男性と婚約。次に好きになったのは、いとこの未亡人だった。これもうまくいかず、29歳の頃には結婚と1年ほど同棲したが、性格が合わず最後は決別した。何をしても失敗ばかりで働かない兄、弟のテオも限界を感じ、新しい生活をするようにと南仏アルルへと送り出した。そこで画家仲間ゴッホと共同生活をはじめたが、強すぎる個性を持つふたりがうまくいくはずもなかった。

そして、1888年12月23日、ゴッホは自分の耳を切り取った。

理由は、よくわかっていない。耳は、性器のメタファー「隠微」とも言われる。耳は首を感じ取る器官でありながら、古代より人類の間では、異性へのアピールを表現するキャン

127×188mm
Paperback/128pages
Retail price:JPY 1,800
Release date:2021/05/26
ISBN:978-4-8342-5346-7

こじらせ恋愛美術館

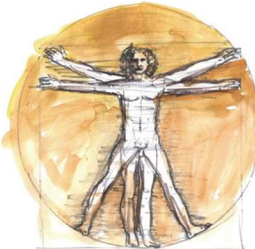
Kojirase Love Museum



This is the second volume of an art commentary essay that has been featured extensively in the media. The author, Kunio Nakamura, is active in many fields, including kintsugi, artist, art director, and writer, and has provided many art commentaries at art museums and in the media. In this second volume of the series, he focuses on the "twisted love lives" of the masters of art, and with a wealth of color illustrations, he takes a fun look behind the scenes at the birth of their masterpieces. It also includes many easy-to-understand chart diagrams such as "Diagnosis of Twisted Love" and "Correlation Chart of Twisted Love in the Art World."

[Table of Contents] - Camille Claudel, the tragic sculptor who created Rodin and was destroyed by Rodin/ - Leonardo da Vinci, the aesthetically-pleasing genius who loves curly hair/ - Marie Laurencin, the queen of pastel-colored, gorgeous love/ - Georgia O'Keeffe, the goddess who married the desert/ - Léonard Tsugouharu Foujita, the cuckold Foujita's Milky Life /- Claude Monet, Carrying a Strange Large Family on His Back /- Alberto Giacometti, My Wife's Lover is My Lover ... and 10 others in total.

ナカムラクニオ (中村 邦夫) Kunio Nakamura



レオナルドが38歳頃に描いた『ウィトルウィスの人体図』。人体の中にある「黄金比」を表現していると考えられている。

美意識過剰な天才は巻き毛が好き レオナルド・ダ・ヴィンチ

Leonardo da Vinci (1452-1519)

誕生日
1452年4月15日


出身地
フィレンツェ共和国
ヴィンチ村

父
セル・ピエーロ・
ダ・ヴィンチ
(公証人)

母
カタリーナ
(農夫の娘)

趣味
発明、解剖

性格
穏やか
好奇心旺盛



経歴
イタリア、ルネサンス時代の天才芸術家兼発明家。建築、音楽、科学、解剖学、土など幅広い分野で活躍した。世界最高の頭脳を持つ「万能の天才」として知られているが、幼い頃に教育を受けていないため、生涯コンプレックスを抱え、自己顕示欲に満ち溢れた人物でもあった。溺愛したのは、超不良の弟子サイ（小悪魔イメム）。

レオナルド・ダ・ヴィンチ こころの
恋愛感覚

67歳	54歳	38歳	24歳	0歳
最愛の弟子ラファエロに 死守られ、フランスで死去	14歳の美少年メルツイ を愛する	10歳の美少年サイを 弟子にする	同性愛の疑いで2回逮捕 される	母の愛情に飢えた子ど も時代を過す

藤田敏治
Leonard Tsuguharu Foujita


じらせ
Bave

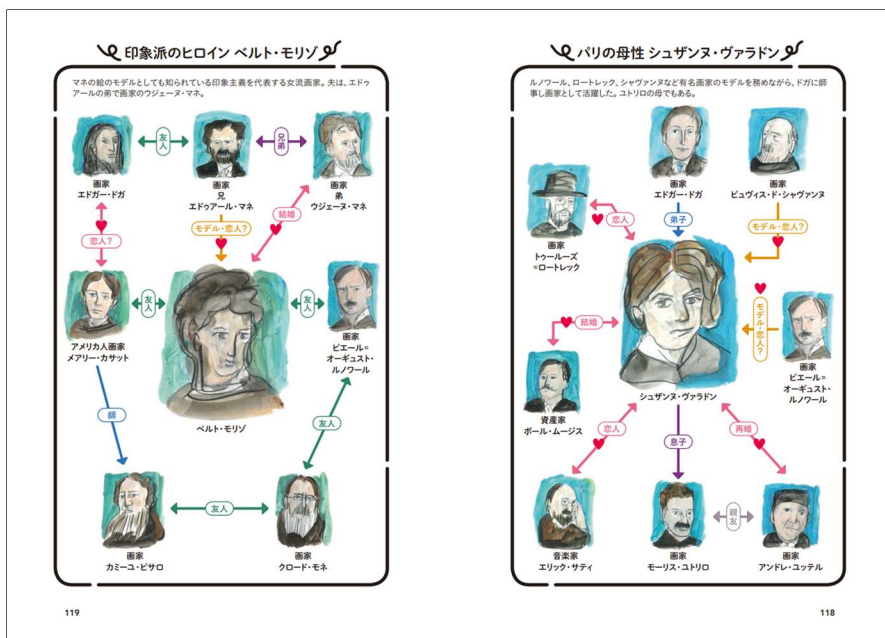
狂騒の1920年代、キャバレーの歌手、モデル、画家としても活動したキキは、「エコール・ド・パリ」と呼ばれるモンパルナスの芸術家たちに愛された女神だった。本名はアリス・フランシス（「キキ」の愛称で呼ばれた）はギリシア語で「アリス」の意味。彼女はブルジョワの貧しい家庭に私生児として生まれ、12歳でパリに出た。戦時下の軍需工場での靴などの縫製の仕事をしながら、16歳になると芸術家たちのモデルをはじめ、キスリング、モディリアーニ、スーティン、写真家マン・レイなど名だたる芸術家たちのモデルだったことが知られるが、最初の大きな転機はフジタとの出会いだった。ふたりが出会った時、最初にキキがフジタの肖像画を描いた（実はキキも絵を描き、のちに個展も開いている）。途中、歌ったり、叫んだり、カンパネールの音の上を歩いたりしながら、絵は完成した。そして、フジタにモデル代を払わせると、キキは意気揚々と出ていった。もちろん自分が描いた肖像画も持って、そして、カフェで、金持ちのアメリカコレクターにこの肖像画を高い金額で売りつけた。翌日には、フジタがキキを描いた。パリに来て初めての大作だった。キキの肌は牛乳のように白く透き通り、歯はキラリと光っていた。美しい歯を見せ



憧れられたフジタの乳白色の人生

「彼女は華やかな小さい指を赤い口に当て、誇らしげにお尻を振りながら、全くこっそりと、はにかんで入ってきた。コートを脱ぎ、彼女は直裸だった」に寄せた文章。わが友キキ」初めて会った日のことをフジタは、「モンパルナスのキキ」に寄せた文章。わが友キキ」でこんな風に書いていて、さらに、夏も冬もキキは決してパンツをはかない。裸も夜も食べることしか考えなかった」とフジタは回想する。

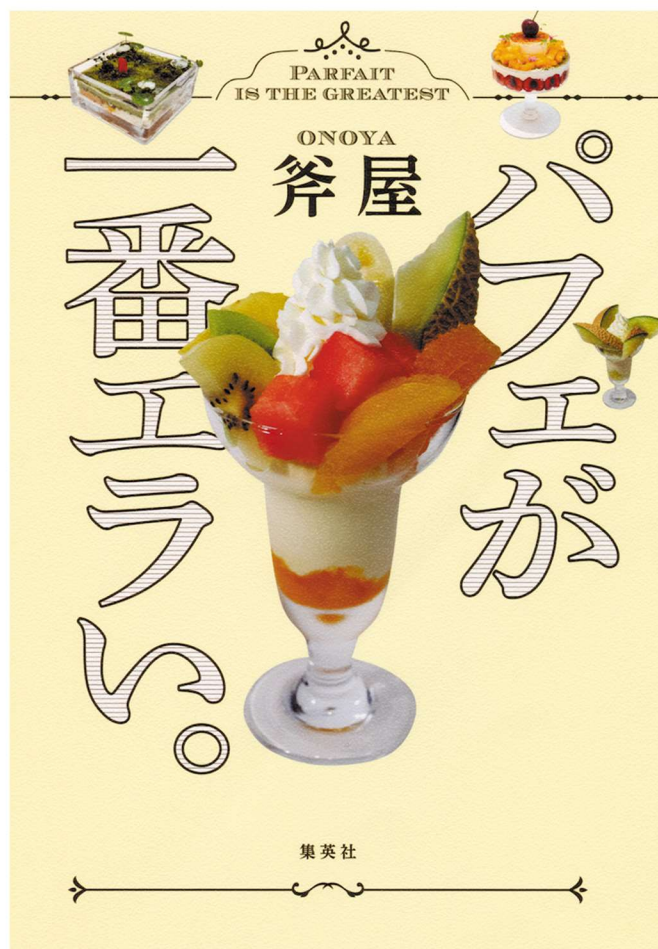




127×188mm
Paperback/128pages
Retail price:JPY 1,800
Release date:2023/05/26
ISBN:978-4-8342-5372-6

パフェが一番エライ。

Parfait is the Greatest



"Parfait is the ultimate entertainment." --Onoya. In this guidebook, Onoya, Japan's only parfait critic who eats 500 parfaits a year, discusses parfaits, a food culture that is unique in the world and continues to develop uniquely in Japan. Along with photographs of beautiful parfaits, the guidebook provides information on what to taste, how to find a parfait store, what fruits are in season, and the historical lineage of parfait's development. The book introduces a wide range of parfait stores, from the most famous fruit parlors to cutting-edge confectionery stores, as well as casually accessible convenience stores and family restaurants in Japan. The book also includes a valuable collection of parfait materials that the author has collected over the years, including glasses, cutlery, and images of parfaits by shape. This is a book that will fascinate you with parfait, from beginners to experts. [Table of Contents] - Parfaits are not food / - The A-B-A structure of parfaits / - Parlor and patisserie types / - Enjoy the difficulty of eating / - The labor problem of spoons...etc.



第1章 基礎編

「表層」



入門に最適なパフェ選から、「パフェの魅力とは何か?」「パフェの歴史」「二天頂とは?」まで。パフェを知り、パフェを楽しむための第一歩はここから。

(74) 期間 フルーツ各編

高き
ジュシーさ
もっも感



高き
ジュシーさ
もっも感

(76)

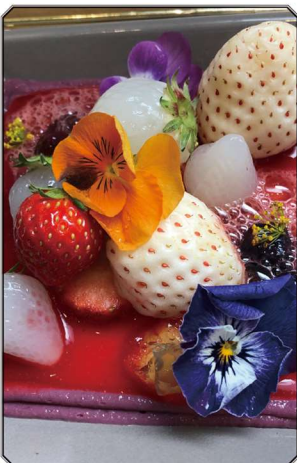
呼びたくる。
カットした桃を飾り付けているパフェは食べやすいほうで、お店によっては桃を半分切った部分にクリームなどを入れてから元のように「接着」してグラスの上のせているパフェもある。正直、とても食べにくい。グラスの上に乗ると居座った桃も、結局グラスから落ちて食べるしかないのがある。ここでは、食べやすさより、桃パフェとしてのデザイン性を優先させている。
「どうせ作るなら、本をむきむきで食べるのと同じくらい重要である。端的な答えは、そのほうが見栄が面白いから」である。しかし先で説明した「どうせ」に抗うことが文化だからだ」と嘆いてもいいだろうか。どうせ職人人生は着るし、どうせ下りる山を人は登るし、どうせ死ぬ人生は生きるものである。どうせ腹の中で一緒にたなるパフェの層構造の一つ一つに、私はきまやまい言っているのだ。
よからうし、パフェの都合に、人はお任せよではないか。
かわいらし、おいしいから、許す。



高き
ジュシーさ
もっも感

(91) 第3章 発展編

高き
ジュシーさ
もっも感



芸術性 ★★★
味の独創性 ★★★
寛容度 ★★★

(90)

機の上で置かれた、おまかせパフェとは思えない立派。そのイメージが鏡に映って増幅すると、このパフェは現実味あわを消した芸術として立ち現れてくる。一体何が本当で、何が本当のなかで、何が本当に増幅を続けるのと同じように、情報の乱反響の中で、我々は何を「本当」と見なすべきか、どのように「本当」にたどりつくべきか。
「知らないこと」と「知ること」のどちらも選べるという場。知ることを選べない。そのほうがいいと、現代人は思っている。そして、多くのことは知りあらず知ることがある。だから、「知らない」という密やかなさには不安になってしまふ。難題な時代である。
未知の対象に驚くことを怖いと思うか、羨しいと思うか。私は、心底驚かされたパフェほど鮮明に見える。その幸福な記憶の一つ一つが自分という存在を支える柱となっている気がするのだ。



高き
ジュシーさ
もっも感

127×188mm
Paperback/128pages
Retail price:JPY 1,800
Release date:2021/08/26
ISBN:978-4-8342-5349-8

猫はなぜごはんに飽きるのか？

Neko wa naze gohan ni akiru noka?

Why Do Cats Get Bored With Their Food?



This book is a practical book that introduces countermeasures and solutions based on scientific evidence for all owners who are worried about cat feeding.

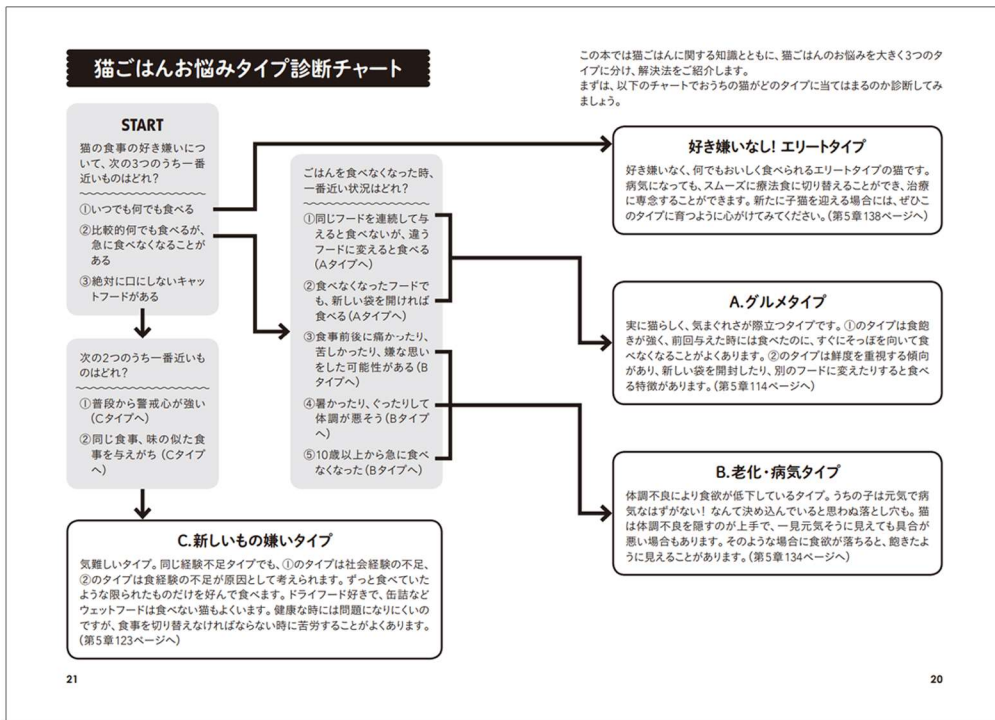
The author is Mr. Iwazaki, also known as the "Cat Food Doctor", who works at a long-established Japanese pet food manufacturer and studies the "tastiness" of cat food every day.

First, we use a chart to diagnose the type of cat you have in order to understand what is causing your cat to become bored with food (a phenomenon in which they stop paying attention to their daily food).

In addition to introducing ways to improve cat's eating habits for each diagnosed type, the book also uses diagrams to carefully explain fundamental knowledge such as cat's habits and eating habits. You can deepen your understanding of cats. For easy reading, manga and illustrations by popular manga artist Naomi Fukagawa are included at the beginning, end,

岩崎 永治

Eiji Iwazaki



第2章 ◆ 猫の習性

猫の食べ方の図

【読み】

- ①舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。
- ②舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。
- ③舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。
- ④舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

①舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

②舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

③舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

④舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

⑤舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

⑥舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

⑦舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

⑧舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

⑨舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

⑩舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

⑪舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

⑫舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

⑬舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

⑭舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

⑮舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

⑯舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

⑰舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

⑱舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

⑲舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

⑳舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

㉑舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

㉒舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

㉓舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

㉔舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

㉕舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

㉖舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

㉗舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

㉘舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

㉙舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

㉚舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

㉛舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

㉜舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

㉝舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

㉞舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

㉟舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

㊱舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

㊲舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

㊳舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

㊴舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

㊵舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

㊶舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

㊷舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

㊸舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

㊹舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

㊺舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

㊻舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

㊼舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

㊽舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

㊾舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

㊿舌を口の手に曲げて、舌先を水面につける。

猫の五感②触覚

触れたものの形や質感、温度を感じる「触覚」は、猫の食糧のおいしさに大きく関係します。ポイントは①食べやすさ、②口当たり、③温度の3つ、順番に解説していきます。

ポイント①食べやすさ…優美な食べ方を邪魔しないこと

猫の食べ方と飲み方はとても特徴的。猫の水飲みは「優雅」とも表現されることのあるほたけの動物と比べて口元が丸いようです。猫はきれい好きなので、体を汚すような食べ方、飲み方は、食欲を減退させてしまいます。猫に不自然な食事を与える、まずは自分でも猫の食べ方、飲み方を知らせておきましょう。

【食べ方】

- ①舌でつかむ……猫が舌でつかむ食べ方。ゼリーや固形のウェットフードもこの食べ方をする人が多い。
- ②舌でつかむ……舌で食べ物を包み込むようにする。
- ③舌でつかむ……舌先で口の中に引き入れる。ヒマラヤン、ベルシャヤなどの短頭種に共通した食べ方。
- ④シャベル状……切歯(前歯)ではきみ、口の中に入れる。シャムのような顔立ちが好む食べ方。

127×188mm
 Paperback/176pages
 Retail price:JPY 1,600
 Release date:2023/01/26
 ISBN:978-4-8342-5362-7

ぼくとねこのすれちがい日記

Boku to neko no surechigai nikki

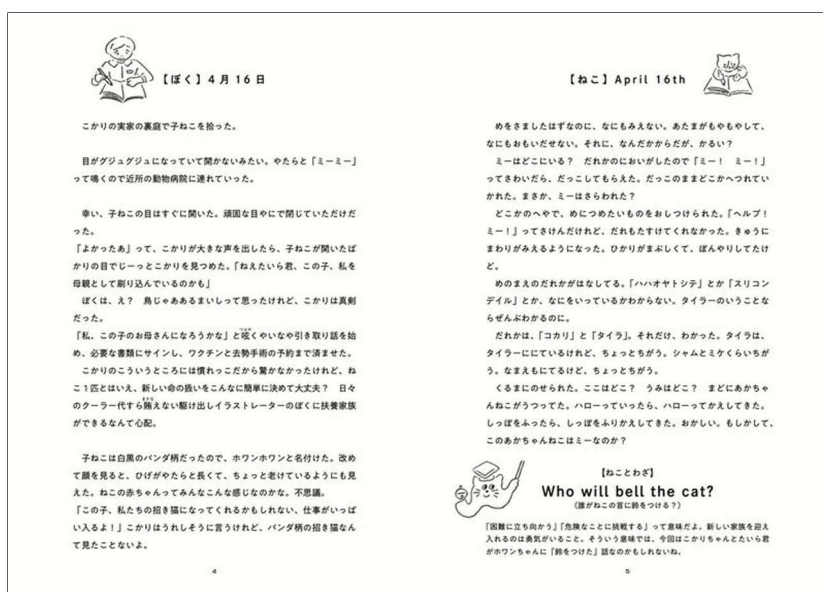
Diary of Me and Cat's Passing Each Other



A pictorial novel based on a true story. The author, Heisuke Kitazawa, is a popular illustrator active in a wide range of fields in Japan and abroad, including product packaging for the Japanese confectionery brand "Francais" and the French perfume "KENZO parfums," as well as book covers and CD artwork. The book design is by renowned book designer Naoko Nakui. This colorful and extravagant book focuses on "kawaii" in every detail. In a corner of Tokyo, "I," an unsuccessful illustrator, picks up a strange-looking kitten. This cat has memories of a previous life living in the U.S. and recalls the beaches of California. The cat and I grow up together, our family grows, and we eventually have to say goodbye. This is a heartwarming autobiographical story with subcultures such as Japanese and American music and video games from the 1990s to the 2010s. Included is a bonus

北澤 平祐

Heisuke Kitazawa



148×210mm
 Paperback/128pages
 Retail price:JPY 1,800
 Release date:2021/06/25
 ISBN:978-4-8342-5348-1

青春とシリアルキラー

Seishun to serial killer

Youth and the Serial Killer



佐藤 友哉

Yuya Sato

127×188mm/Hardcover/248pages

Retail price:JPY 1,800

Release date:2022/04/26

ISBN:978-4-8342-5356-6

This autobiographical novel by the author, born in 1980, depicts a situation in which a generation that has lost confidence in their masculinity sympathizes with criminals because of their rebellion against society. The author, who debuted at a young age, was married, had a son, and was leading a peaceful life. One day, he is contacted by his former editor, who has returned from Paris for the first time in several years, and is asked if he would like to finish a novel he had previously put on hold. It was a novel about a real-life serial killer of the same generation, but it had been put on hold because the editor in charge had left Japan. However, the author no longer had the same interest in serial killers as he had in his youth. This was because he was a good father and lived happily with his family. However, as he held meetings with his editor, he gradually began to question his current happiness within the family. In order to digest the residue of youth left in him, he regains the youth that should have been lost, while accepting his own current situation through his band activities as a new challenge and his examination of serial killers. This work has resonated with contemporary Japanese men who find it difficult to live amidst the changing roles of the family and men.

デクリネゾン

DECLINAISON



金原ひとみ
(金原瞳)

Hitomi Kanehara

127×188mm/Hardcover/352pages

Retail price:JPY 1,800

Release date:2022/08/26

ISBN:978-4-8342-5361-0

This autobiographical novel by the author, born in 1983, depicts the struggles of a modern Japanese woman who wants to live a life fulfilled by work, love, and family. Novelist Shie Amano has gone through two divorces and now lives alone with her junior high school daughter in an apartment in Tokyo. She has recently started dating a university student 15 years younger than her whom she met through an interview, and tells her daughter that she wants to live with him. Upon hearing this, the daughter says she wants to leave her mother's house and live with her father, who is Shie's first husband and is related to Riko by blood. Shie is conflicted, wondering why she has to leave someone when she chooses someone else, and why she cannot live with all the people she loves. The only solace she finds in these unstable days is drinking, talking, and eating good food with those closest to her. The people she shares meals with are female writers in the same profession, her lover, her daughter, her ex-husband, and her editor, and through their conversations, the reality of love and family of people living in Tokyo in the coronavirus pandemic is expressed.

走馬灯交差点

Soumatou kousaten

Runner-up Intersection



西澤 保彦

Yasuhiko Nishizawa

127×188mm/Paperback/360pages

Retail price:JPY 1,800

Release date:2023/03/24

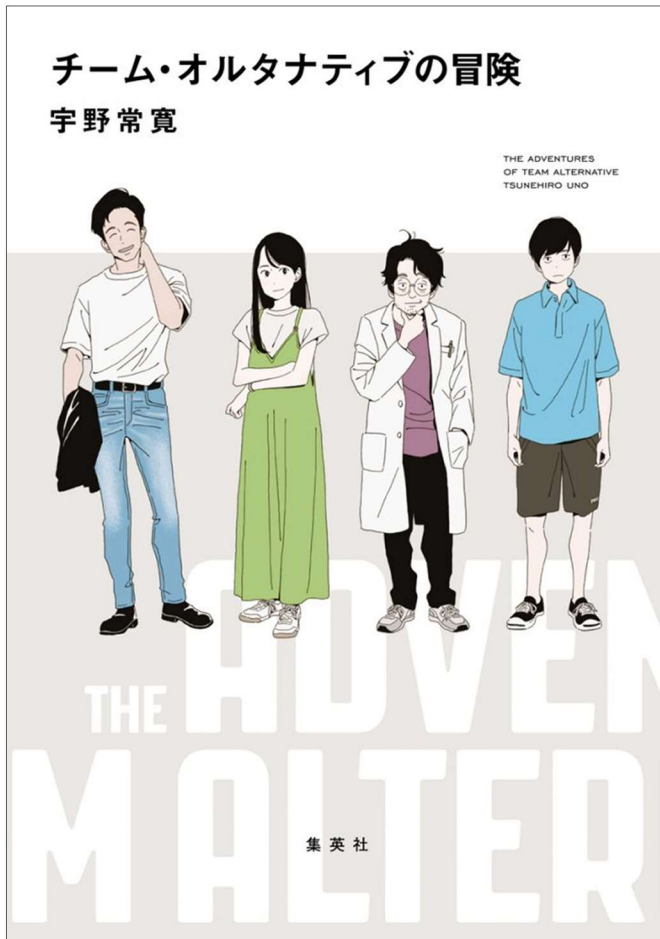
ISBN:978-4-8342-5370-2

Beginning on New Year's Eve in the year 2021, a series of murders occur one after another. The murders involve a family member who possesses a special ability called “personality shifting”. On New Year's Eve, Hiroko's “personality shift” ability is triggered by the murder of her husband. Her consciousness is transferred into that of her husband, the murderer. In this state, she summons her daughter Asahi, who is unaware of what is going on, and turns against her “father who murdered her mother,” and kills her father (who is actually her mother, Hiroko). Then, Hiroko's consciousness enters her daughter's body. Meanwhile, Takao, a detective pursuing a murder case, is pushed off a bridge by someone, activating his personality transfer ability. He transfers into the body of his daughter, Rinka, who seems to have been present at the scene. Hiroko and Takao are members of the same family with the same ability. The two pursue two mysteries: their own special abilities and the murder case. One old woman holds the key to all the mysteries. A masterpiece of “special setting” mystery created by the author who won the “2023 Japan Mystery Writers Association Award for Short Stories”.

●Fiction

チーム・オルタナティブの冒険

The Adventures of Team Alternative



宇野 常寛

Tsunehiro Uno

127×188mm/Hardcover/368pages

Retail price:JPY 1,900

Release date:2023/11/24

ISBN:978-4-8342-5378-8

This is the first novel written by the author, born in 1978, who has been active as a critic of contemporary Japanese subcultures. The main character, a well-read high school student living in a provincial city, feels a sense of stagnation in that city. Most of the city's serious, academically capable people become government officials or teachers, and he despises these adults as hopelessly boring people whose lives are worn out by jobs that don't require imagination. Still, he enjoyed his days in his own way, taking over a nearly defunct photography club with a group of like-minded friends, and befriending a female teacher because of their mutual love of books. However, his peaceful life begins to be disrupted after the mysterious death of a female teacher he was close to. Through his adventures with a beautiful transfer student who newly joined the photography club and the eccentric photography club advisor, he arrives at the shocking truth surrounding this world. This world was under attack by invaders from a different world. To protect mankind from them, Team Alternative, made up of people with a certain power, takes up the fight. A coming-of-age adventure mystery that pays homage to Japanese SFX movies.

生命の旅、シエラレオネ

Inochi no tabi, Sierra Leone

Journey of Life, Sierra Leone



加藤 寛幸

Hiroiyuki Kato

127×188mm/Paperback/292pages

Retail price:JPY 1,800

Release date:2023/02/24

ISBN:978-4-8342-5371-9

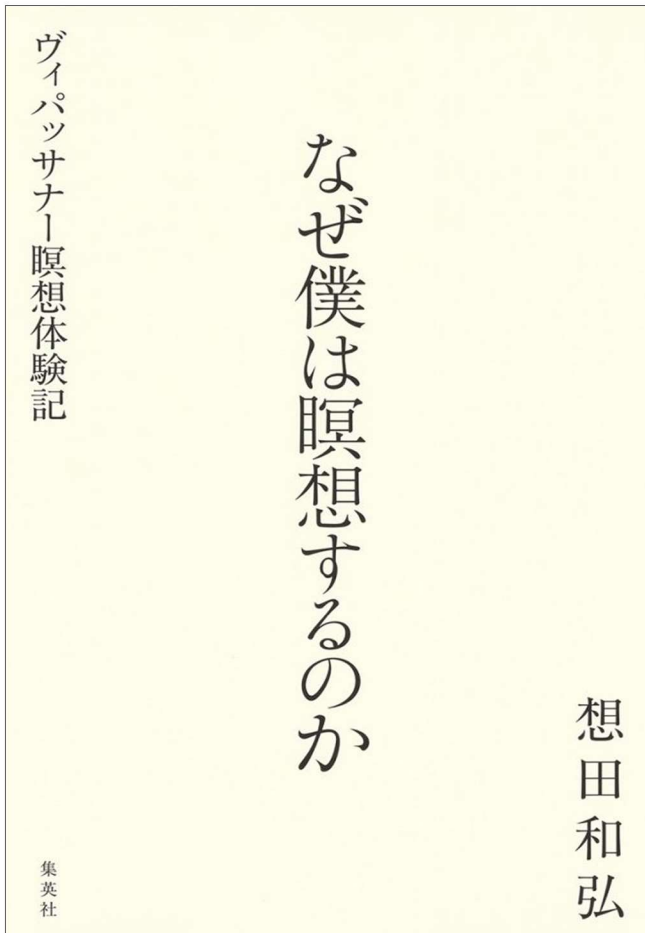
This is a nonfiction book by a Médecins Sans Frontières (MSF) pediatrician who treated children infected with Ebola in Sierra Leone, West Africa (he later became president of Médecins Sans Frontières Japan), describing his own epic four-week battle.

The author once suffered from the current situation in South Sudan, where newborn babies were dying one after another during his medical work there. After returning to Japan, he suffered from PTSD and lost the meaning of life. He participates in the Ebola relief efforts, but many lives cannot be saved, and he also suffers from the selfish reactions of the international community. Nevertheless, he desperately fights Ebola, and after recovering, he meets children who are like nursing another patient, and gradually leads him to rebirth. The book was also selected as a finalist for the Ken Kaiko Nonfiction Award sponsored by Shueisha, and was highly praised by the selection committee members, including Kang Sang-jung. This is a book that is needed in this day and age of war and conflict. It is a work of universal value that will make you think about what humanitarian aid and altruism really mean.

なぜ僕は瞑想するのか ヴィパッサナー瞑想体験記

Naze boku wa meiso suru noka?

Why Do I Meditate? Vipassana meditation experience



相田 和弘

Kazuhiro Soda

105×173mm/Hardcover/128pages

Retail price:JPY 1,700

Release date:2021/04/26

ISBN:978-4-8342-5347-4

Vipassana meditation is a method that follows the Buddha's path to enlightenment. This meditation method has been handed down in a school of Buddhism called Theravada Buddhism for 2,500 years, and is attracting worldwide attention as an efficient way to attain mental stability. The author, Kazuhiro Soda, an internationally acclaimed documentary filmmaker whose works include " Campaign" and "Mental," has observed and documented the subjective experience of this "Vipassana meditation" by experiencing it himself. After deciding to participate in a 10-day meditation training camp course, the author left his phone, computer, and wallet at a meditation center surrounded by nature, completely cut off all ties with the outside world, and sat and meditated for more than 10 hours a day for 10 days. This is a valuable reportage of ten days in which an ordinary person, not a religious practitioner, observed and recorded Buddha's path to enlightenment.

わるい食べもの
Warui Tabemono
The Wicked Foods

千早 茜
Akane Chihaya

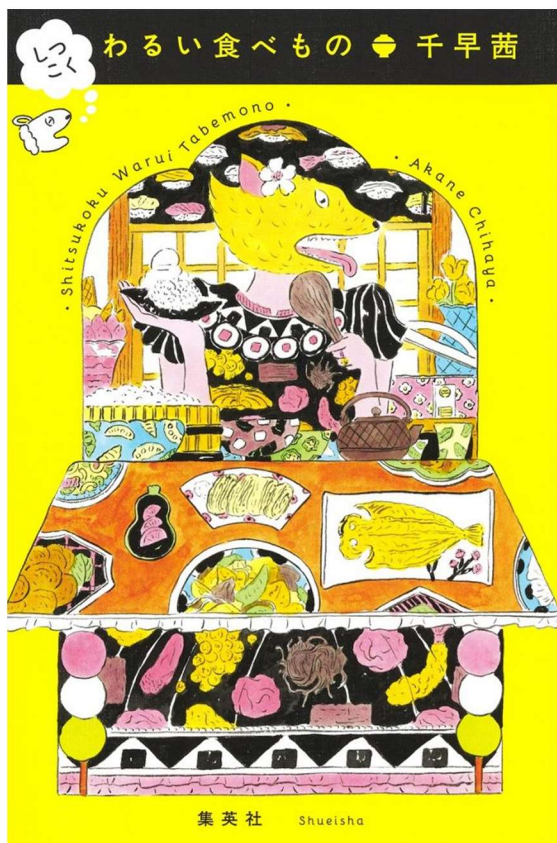


127×195mm
Hardcover/208pages
Retail price:JPY 1,400
Release date:2018/12/05
ISBN:978-4-8342-5325-2

A unique food essay by Akane Chihaya, Naoki Prize-winning author for 2023. In this age of "good food" information flooding the market, this ambitious work explores the depth of food through the pursuit of "bad" food, and by extension, questions the very way of life itself. Many illustrations by popular illustrator Heisuke Kitazawa are also included.

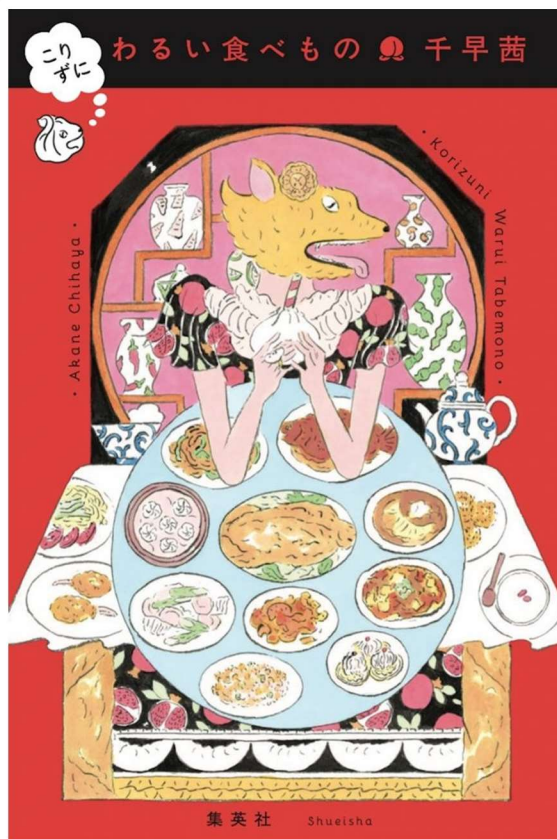
Three works have been published in the series. The first one is "The Wicked Foods", the second one is "The More Wicked Foods", and the third one is "The Wicked Foods Again".

しつこく わるい食べもの
Shitsukoku Warui Tabemono
The More Wicked Foods



127×195mm/Hardcover/192pages
 Retail price:JPY 1,400
 Release date:2021/02/26
 ISBN:978-4-8342-5343-6

こりずに わるい食べもの
Korizuni Warui Tabemono
The Wicked Foods Again



127×195mm/Hardcover/160pages
 Retail price:JPY 1,400
 Release date:2022/11/25
 ISBN:978-4-8342-5365-8



LINE Stickers now on sale!



Memo

HOMESHA

Publishing Genres

Comics/Magazines/General books

Novels/Essays/Practical books

CONTACT

HOMESHA Inc.



<https://www.homesha.co.jp/>

Rights Manager

Yuta IMAMURA

rights@homesha.co.jp

Address

101-0051

東京都千代田区神田神保町3-29

共同ビル5F

5F Kyodo Bld 3-29

Kandajimbocho Chiyoda-Ku

Tokyo 101-0051 Japan